

各教科等における 「令和6年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



中学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。
- 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①数学的な見方・考え方を働かせる学習活動の充実

- ◇新たな課題に対し、既習の知識及び技能との関連を示しながら、目的に応じて数、式、表、グラフ等を活用して、解決の見通しや構想をもたせる場面を設定する。
- ◇振り返りの時間に、既習の知識及び技能を用いた有効な解決方法等をまとめさせることで、既習の学習内容を次の問題解決へのアイデアとして生かせるようにする。

②数学的に考える資質・能力を育成する学習活動の充実

- ◇生徒が自ら課題を把握したり、解決したりする時間を確保し、教師主導の知識伝達型授業に偏らないようにする。その際、発問を工夫し、既習事項との関係を基に、自分の考えを数、式、表、グラフ等を使って表現したり、他者に筋道立てて説明したりする場面を単元等の中で計画的に設定する。
- ◇ICTを有効に活用する（多様な解法を共有し自分の考えを深める・観察や操作、実験などを通して問題を見いだす・問題を解決するために必要なデータを収集する・図、表、グラフなどを作成して処理する等）ことで、数学的に考えたり、表現したりする時間を十分に確保する。
- ◇「とくしま授業技術の基礎・基本」の「板書について」「ノート指導について」を参考にして、思考や振り返りなどに板書やノートを活用する場面を設定する。

③数学的活動の充実を図り、学ぶことの楽しさや数学のよさを実感させる学習活動の充実

- ◇日常生活や社会の問題の中にある数学的な事象を題材とし、既習の知識及び技能と関連付けて解決する場面を設定する。必要に応じて、週末や長期休業中の課題として取り組むようにする。